

2022年9月12日

11:00-12:30

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター

令和4(2022)年度公民館職員専門研修

公民館の「原点」を問い直す

鈴木真理

- 1 はじめに
- 2 生涯学習と社会教育：ここから考え出さないと
- 3 さまざまな学習とその行政的支援：どうして行政が学習に関与するのか
- 4 「公民館」に関する基礎知識：社会教育施設とは何かという問い
- 5 行政が行うべき条件整備－社会教育行政のしくみ：施設・団体・職員・参加
- 6 社会教育関係職員・「社会教育人」として期待される役割
- 7 おわりに：地域社会・社会教育・公民館は存続しうるかという問いにどう答えるか

[参考文献]

- 鈴木真理『学ばないこと・学ぶこと-とまれ・生涯学習の・ススメ』学文社 2006年
鈴木真理『新時代の社会教育』放送大学教育振興会 2015年
鈴木真理(編集代表)「シリーズ 生涯学習社会における社会教育」(全7巻)学文社 2003年
鈴木真理(編集代表)「講座 転形期の社会教育」(全6巻)学文社 2015-6年
鈴木真理・大島まな・清国祐二編『社会教育の核心』全日本社会教育連合会 2010年
鈴木真理・馬場祐次朗・薬袋秀樹編『生涯学習概論』樹村房 2014年
鈴木真理・大島まな・大木真徳編『改訂・生涯学習概論』樹村房 2022年(近刊)

鈴木真理 masuzuki@ccs.aoyama.ac.jp

講義レジュメ

講 師 菅原 雄一郎

内容・テーマ

今後の社会教育の推進と施策の動向

期 日 令和4年9月12日

1. 社会教育の在り方について
2. 公民館のデジタル化について
3. 社会教育士について
4. 社会教育施設における PFI（コンセッション）促進
5. 学校と地域の課題解決につながるコミュニティ・スクールの推進
6. 体験活動の推進
7. 家庭教育支援の推
8. 障害者の生涯学習の推進

講義レジュメ

講 師 柴川 弘子

内容・テーマ

公民館における「SDGs」の実践を考える

期 日 令和 4 年 9 月 13 日

1. はじめに — SDGs を紐解く
2. SDGs と ESD の関係性
 - 3-1. ESD の歴史的潮流：「持続可能な開発」から「持続可能な開発のための教育へ」
 - 3-2. ESD の核にある学習理論：生涯学習の 5 本目の柱としての「変容的学習」
 - 3-3. SDGs の登場と ESD
3. 社会教育と SDGs ・ ESD
 - 2-1. SDGs は諸刃の刃？
 - 2-2. SDGs と教育/教育者 — “教育は社会を変えない” が...(Pauro Freire)
 - 2-3. SDGs は一体私たちに何をもたらすのか
4. SDGs 実践・ESD における公民館の可能性と課題
 - 4-1. ESD “岡山モデル” の再訪 – Foreigner’s Eyes
 - 4-2. 教師教育との融合「グローバル公民館」
 - 4-3. SDGs のその先を見据える—新しい公民館モデル

〔参考文献〕

「非抑圧者の教育学 50 年記念版」パウロ・フレイレ 三砂ちずる訳 亜紀書房

「希望の教育学」パウロ・フレイレ 里見実訳 太郎次郎社

「パウロ・フレイレ“非抑圧者の教育学”を読む」里見実 太郎次郎エディタス

「学習：秘められた宝：ユネスコ「21 世紀教育国際委員会」報告書

事例発表レジュメ

内 容 ・ テ ー マ	「SDGs」視点での公民館活動の可能性
実 践 事 例 名	事例① しめ飾りづくり ② 地域安全マップづくり ③ 防災すごろくづくり まとめ 住民へのSDGs意識の普及と啓発について
事業主体（実施機関）	金沢市菊川町公民館
連携・協力機関等	地区町会連合会、地区自主防災会、犀桜小学校、犀桜小学校PTA、防犯委員会、地区消防分団、地区赤十字奉仕団、地区社会福祉協議会、北陸大学、金沢中警察署、菊川交番等
発 表 者	主事 原 恵子

講義期日 4年 9月 13日

内 容

- ① 既存事業で公民館の人気講座の一つである「しめ飾りづくり」に係る製作に用いる材料を、SDGsの目標7（エネルギー）、12（生産・消費）、15（陸上資源）の視点に立脚して捉え直し、「学びの深まり」のある講座に生まれ変わる可能性について述べる。
- ② 地域の小学校の統合を契機に「地域安全マップづくり」に取り組んだ。この事業は、子どもたちの危機回避能力の向上という目的だけではなく、「安心・安全なまちづくり」及び「担い手そだて」の可能性を「ねらい」に加えることで、SDGsの目標11（持続可能な住み続けたいまちづくり）の達成に向けた側面を有する講座へと質的に高めるきっかけとすることができたと思われる状況について述べる。
- ③ 単なる地域防災力の向上だけではなく、「人づくり」や「まちづくりの次の担い手の育成」といった視点を持たせた「防災すごろくづくり」を通じ、まずは、SDGsの目標11（安心・安全な災害に強い住み続けたいまち菊川）をねらいとしている。加えて、地域の子ども、住民、消防団等の各主体が連携・協働しながら取り組むことを通じて、目標17（パートナーシップ）を、さらに、命を守り合うことにつながるこの事業によって、目標3（健康と福祉）、目標13（気候変動）等についても併せて考えることのできる学びの機会となるよう取り組んでいる状況をお話ししたい。

最後に、地域の皆様の学習拠点としての公民館におけるSDGs視点での活動の意義や社会教育職員自身に求められているのではないと思われることについて私見を交えて言及しまとめたい。

〔参考文献〕

金沢ミライシナリオ <https://kanazawa-sdgs.jp/2020/05/28/miraiscenario/>

事例発表レジュメ

内 容 ・ テ ー マ	COVID-19から学んだこと 豊丘村公民館とSDGs ～コロナ禍の出発～
実 践 事 例 名	取組宣言から現在まで
事業主体（実施機関）	豊丘村公民館
連携・協力機関等	豊丘村教育委員会
発 表 者	豊丘村公民館 館長 市澤和宏

期日 令和4年 9月 13日

内 容

- 豊丘村を知ってください
- これまでの動き
- SDGs の推進には公民館は最適な立ち位置にある
- SDGs 推進に公民館ができること
- 微力だけれども決して無力ではない

講義レジュメ

講 師 坂口 緑

内容・テーマ

多様な「つながり」で目指す持続可能な地域社会づくり

期 日 令和4年9月13日

〔参考文献〕

坂口緑, 「NPO,企業等との連携・協働の推進と地域の活性化」, 国立教育政策研究所社会教育実践研究センター編, 『社会教育経営論』 ぎょうせい, 第6章, 2021.

坂口緑, 「新しい市民大学の系譜と類型」 『日本生涯教育学会論集・37』, 2016.

坂口緑, 「地域のなかの「外」へ開く——新しい市民大学の事例から考える」 『月刊公民館』, 2016年9月号.

講義レジュメ

講師 友延栄一

期日 令和4年9月

内容テーマ 岡山市の公民館における ESD/SDGs

1. 岡山市立公民館について
2. 岡山山における ESD（持続可能な開発のための教育）の経緯
3. 岡山市立公民館基本方針
4. 公民館における ESD/SDGs の取組
5. まとめ

事例発表レジュメ

内 容 ・ テ ー マ	多様な「つながり」で目指す持続可能な地域社会づくり
実 践 事 例 名	地域と公民館が連携して取り組んだ地域づくり活動
事業主体（実施機関）	宮城県名取市那智が丘公民館
連携・協力機関等	
発 表 者	地域連携推進員 木下末也

期日 令和4年9月13日

内 容

1. 名取市公民館、那智が丘地区の紹介
2. 那智が丘公民館における“地域づくり活動”
3. 地域まちづくりチャレンジ講座
4. 地域まちづくり事例の紹介
 - (1)事例1：さくらプロジェクト
 - (2)事例2：高齢者のつながり活動
 - (3)事例3：地域資源を活かした地域づくり
5. コロナ禍がもたらした変化
6. 救世主現る「魅力発信プロジェクト～#カタクリっ子～」
6. 那智が丘公民館の気づき

事例発表レジュメ

内 容 ・ テ ー マ	人を育み、人をつなぎ、まちを元気にする社会教育を目指して
実 践 事 例 名	長崎県社会教育支援「草社の会」の取組
事業主体（実施機関）	長崎県社会教育支援「草社の会」
連携・協力機関等	
発 表 者	長崎県社会教育支援「草社の会」 顧問 江頭明文

期日 令和4年9月13日

内 容

- 1.長崎県社会教育支援「草社の会」の概要
- 2.草社の会の活動に見る「つながり」
- 3.事業等の推進にあたって～「つながり」を活かし、「つながり」をつくる～
- 4.多様な「つながり」の構築に向けて

〔参考文献〕

- ・長崎県社会教育委員会答申（2016年）
「活力ある地域づくりに貢献する実践的人材の育成方策」
- ・中央教育審議会答申（2018年）
「人口減少時代の新しい地域づくりに向けた社会教育の振興方策について」
- ・「つながり」で目指す持続可能なふるさとづくり（2021年 ぎょうせい）
長崎県社会教育支援「草社の会」 江頭明文著

講義レジュメ

講 師 岡田 正彦

期 日 9月15日

内容・テーマ

「地域課題の分析・把握と課題解決に向けた公民館の役割」

1. 総論

- (1) 公民館が地域づくりに関わる場合、「学びと取組」の両輪に関わることが必要なのではないか
- (2) 地域づくりの取組は公民館単独の機能でもたらずものではなく、公民館をはじめとしたネットワーク全体の機能でもたらずものである

2. 地域づくりの取組の前提（周辺）

- (1) 公民館をめぐる状況
- (2) （公民館が出向く）地域が置かれている状況

3. 地域づくりの取組の展開（全体像）

- (1) 取組のプロセス設計
- (2) 取組の3つのフェーズを捉える

4. 解決に取り組む地域課題の設定

- (1) 問題と課題
- (2) 地域課題の分析と把握
 - ①社会教育調査の実施
 - ②地域課題の分析・検討を取組（学習プログラム）の一部として実施する
 - ③先行のあるいは成功した他自治体の取組事例から地域課題の分析や課題解決の方法を援用する
- (3) 誰が地域課題を検討するか
- (4) 何を地域課題として取り上げるか

- (5) どうやって取り上げる地域課題を検討・決定するか
- (6) 取組の具体化
- (7) 取組計画についての発信と意見収集

5. 地域づくりの取組の推進

- (1) 合意形成と実働
- (2) こまめな進行のチェックと計画の修正
- (3) 取組におけるクローズアップと鳥瞰
- (4) 取組についての発信と巻き込み

6. 取組の振り返り（評価）と改善

- (1) 取組の振り返り（評価）
- (2) 別の地域課題、別の取組との接続・連携
- (3) 振り返り（評価）から次の計画・実践・振り返りへ

7. 余論（熱心な取組が適切に評価されるために）

- (1) 公民館内部での理解形成
- (2) 関係部局・主体の理解形成
- (3) 地域住民（全体）の理解形成

講義レジュメ

講 師 伊藤 達矢

内容・テーマ

期 日 9月16日

芸術×公民館のチカラ

～共生社会と社会的・文化的処方考え方～

■ 公共施設を活用した市民参加型のコミュニティ形成プロジェクトについて

東京都美術館と東京藝術大学が取り組むソーシャルデザインプロジェクトの活動と仕組みを紹介。

- ・ 東京都美術館×東京藝術大学「とびらプロジェクト」
- ・ 東京藝術大学 Diversity on the Arts プロジェクト

■ 「共生社会」をつくるアートコミュニケーション共創拠点について

東京藝術大学が、企業、行政、研究機関と共に「孤独孤立」といった社会的課題に向かう取り組みを進行中。医療と福祉とアートによって、誰もが取り残されない社会を目指す活動を紹介。

- ・ 社会的処方→文化的処方
- ・ 地域づくりと連携したアート活動

■ 今必要とされる公共施設の在り方とは

- ・ 参加者同士ちいさなグループを作ってディスカッション。

〔参考文献〕

稲庭彩和子・伊藤達矢著, 2018年, 『美術館と大学と市民がつくる ソーシャルデザインプロジェクト』, 青幻舎
東京藝術大学 Diversity on the Arts プロジェクト編, 2021年 『ケアとアートの教室』, 左右社

稲庭彩和子編著 伊藤達矢、河野祐美、鈴木智香子、渡辺祐子著, 2022年, 『こどもと大人のためのミュージアム思考』, 左右社